

寝屋川市 自然を学ぶ会 会報

No.96 2024.3.18
 発行 寝屋川市自然を学ぶ会
 会長 山田 晃
 事務局 寝屋川市高宮 1 丁目 7-9
 千田正喜 宅
 ☎ 090-4036-0719



みえるかな？ 淀川河川敷の冬鳥の観察 2024.2.12

めがさめた 工藤直子

どうしたの？山
 うす緑のようふくが ふるふるゆれてるよ
 おおい山よ！ なにふるふるしているの？
 だってね くっくっく
 雪どけみずが ちょろちょろしてさ
 りすは もこもこするしさ
 かえるは ごそごそ のねずみ かさこそ
 みんなめがさめて あちこち うろちょろ

くっくっくっ くすぐたくてなあ
 ひゃ もうたまらん！
 あ——っはっはっはっは

山がわらって 春がきた

「あいたくて」大日本図書

目次

- (2) 行事報告 1 第 24 回展示会 学ぶ会の展示とトピックス
- (3) 第 24 回展示会 関係団体の展示とトピックス
- (4) 行事報告 2 みんなの掲示版⑩ 淀川の野鳥
私の散歩道
- (5) 行事報告 3 私の散歩道
野外活動センターの自然観察と環境整備④
- (6) 行事報告 4 東図書館「お正月を楽しもう」
みんなであつくる自然教室だより
子ども自然シリーズ 講座
⑪ 凧と羽子板・⑫ ひなだんづくり
幼児と保護者の自然教室②
- (7) 行事報告 5 大人自然シリーズ講座 野鳥・ストーンアート
スタッフ研修 大阪城の野鳥と梅林
自然塾⑨⑩⑪
- (8) 自然はすばらしい シダ植物シリーズ(4)「イヌケシダ」
- (9) 自然界のふしぎ 三葉虫シリーズ(4)「三葉虫の進化と衰退」
- (10) 私の自然観察 身近な昆虫(44)「ヒゲナガサシガメ」
- (11) 図書紹介 「海に沈んだクジラ」新会員紹介
- (12) 行事予定 2024 年度総会・記念講演
自然観察会 ⑧ 私市植物園
みんなの掲示版 宇陀「カタクリ・又兵衛桜」
自然観察会 ① 東部丘陵 ② 淀川点野野草地区

第24回(2023年度) 展示会『私の自然観察』から

広がった交流の輪！

今年度も、1月11日(木)～16日(火)アルカスホールのギャラリー展示会を開催しました。これまでより日程が早くなりましたが、多くの民、関係団体の皆さんとの交流を広げることができました。

会員の皆さんからも関係団体からも例年通り、数多く出展いただき身近な自然観察の楽しみや、自然環境保全の取り組み様子を学ぶことができました。



で
市
の
の

展示会のようす

(1)寝屋川市自然を学ぶ会の出展

□2023年度活動

◇定例自然観察会

・春の淀川・秋の淀川・深北緑地(どんぐり、昆虫)・野鳥・春の野草、樹木

◇みんなの掲示板 丹波清住・山門水源の森・伊吹山・私市植物園・湖北と百済寺ほか

◇夏休み子ども自然教室 ◇子ども自然シリーズ講座 ◇参加・交流の記録

◇自然関係図書 寝屋川の自然など ◇木の実 どんぐり20種、その他の木の実74種

◇配布資料

・本会活動紹介の葉・会報 93～95号・当面の行事予定

・身近な自然ガイドブック第3～7編(実費配布)

(2)『私の自然観察』・会員の出展

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| ①どんぐり工作の見本 <作品19点> | ⑪寝屋川市周辺で観察された野鳥 <写真40点> |
| ②葉っぱの絵工作 <作品 8点> | ⑫私の自然観察 四季の写真 <写真4点> |
| ③一つの窓から見た野鳥観察 <写真9点> | ⑬水仙の花とプラムの枝 <オブジェ> |
| ④四国桂浜の植物 <掲示物3点> | ⑭自然観察会から <写真7点> |
| ⑤伊吹山で見たアサギマダラ <写真3点> | ⑮傘の折り紙工作 <20点> |
| ⑥チョウの標本 <3ケース> | ⑯もち花とリース <各1点> |
| ⑦龍の作品 <5点> | ⑰竹で作った龍 <2点> |
| ⑧魚・鳥の絵 <額2点> | ⑱竹で作った龍 <1点> |
| ⑨野の花を描く 季別、色別 <掛け軸 2幅> | ⑲打上川治水緑地のカワセミ <写真3点> |
| ⑩知多湾 篠島の浜を歩 <掲示物 1点> | ⑳打上川治水緑地のカワセミ <写真集3冊> |



野の花を描く

野の花を描く

新恵子

今年度は季(トキ)別、彩(イロ)別にそれぞれ 48 種を 2 幅の掛け軸にまとめられました。身近な自然を見つめカメラに収めるのも楽しい。そして新さんは絵に描いて自然を楽しんでおられます。庭先の野草の後ろに潜む自然の不思議さを感じながら・・・。

展示会トピックス



野の花を描く

(3)関係団体・機関からの出展

- ①寝屋川市環境総務課 自然環境に関わる行事記録他
- ②寝屋川市立中央図書館 親子で楽しむ科学遊び〈1円玉のふしぎ他〉
- ③寝屋川市野外活動センター センターの施設・事業紹介・パンフレット
- ④寝屋川公園 公園の紹介、四季の活動、イベント紹介・散歩コース・パンフレット
- ⑤寝屋川公園・自然の会 活動紹介 寝屋竹輪会紹介他
- ⑥深北緑地 活動紹介、綿栽培、野鳥観察、蓮根堀体験・パンフレット
- ⑦北河内自然愛好会 北河内の最近の野草他
- ⑧ねや川水辺クラブ 寝屋川のホタル 〈パネルと写真〉
- ⑨水辺に親しむ会 活動紹介、幹線水路の魚類相の記録、会報他
- ⑩淀川管内河川レンジャー グリーンインフラの取り組み他
- ⑪摂南大学 PBLプロジェクト 環境学習支援 ハーバリウム他
- ⑫生物多様性センター センターの業務・施設・場所、パンフレット他
- ⑬ビオトープ田原里山の会 活動内容、施設紹介、下田原の四季他
- ⑭寝屋川市自然資料施設運営スタッフの会 活動内容の紹介

展示会トピックス

エンターテインメント公園

寝屋川公園

この公園での自然環境を大いに生かしているいろいろな取り組みがされています。

野球場や陸上競技場などのスポーツ公園という一面、四季折々に見せる自然の営みを生かして、自然の会メンバーの自然観察のイベントや竹林会の竹林整備なども織り込んだ多面的な活動を展開されています。公園を訪れる人々にとってエンターテインメント公園です。



寝屋川公園のコーナー



手作りコーナー

(4)手作りコーナー(交流コーナー)

今年も手作りをしながら、自然に関わる交流を楽しく広げました。ホールでのコンサートに参加の子ども達も沢山参加してくれました。

どんぐり工作(ペンダント、やじろべえ)、6枚羽の風車など手作りを楽しみました。

帰りには、木の輪のストラップのついたかわいいチャームをお土産にいただきました。

第6回みんなの掲示板 野鳥(淀川・枚方地区)

2月12日(月・祝)

参加者40名

子どもの声が響き渡る

中村 清秀

参加者は40名。その内10名もの子どもが参加してくれたのはこの観察会が始まって初めてのこと。自然と触れる機会の少ない都会の子にとって鳥と言えばカラスかスズメくらいだろうから、野鳥に関心をもってもらえるのはとてもうれしい。



オカヨシガモが見える!

子どもたちはフィールドスコープを覗く度に「あっ、見えた、見えた、きれい」と歓声を上げる。中には「おっちゃん、あそこに鳥が動いているよ」と教えてくれる子も。大人の間ではなかなか見つけにくい鳥の姿なのに、子どもの目ははっきり捉えているようだ。

上空にはトビが輪を描き、多自然池や天野川河口付近ではオオバンが群れを成す。キセキレイを見つけると“わあ、本当に黄色やわ”。淀川本流にはカンムリカイツブリ、オカヨシガモ、キンクロハジロ等々、木々から漏れ聞こえてくる

野鳥の鳴き声。チョウゲンボウを見つけた人もいた。

黒田川の河口の様変わりにびっくり。上流に向かっていつもの雑木林が荒れ果てた砂地に変わっていた。水流の確保、氾濫防止など防災のために伐採したらしい。わからんでもないが心がザワザワ。やむなくUターン、引き返すことに。途中草むらに隠れていたキジの姿も見られた。

最後に『鳥合わせ』をし、「ツクシガモ」が初めて見られましたと言われ、思わず図鑑を見返した。全部で36種もの野鳥が観察されたとのこと。鳥の写真や葉などのおみやげを貰って解散。



エナガがいる!



キンクロハジロ



ツクシガモ



カワラヒワ

目を輝かせてフィールドスコープを覗く10人の子どもたちには今日の観察会はどう映ただろうか。自然を少しでも残したいと考えるいい機会となった観察会でした。

私の散歩道

「自然観察を子どもとともに」

かわいい野鳥に出会えて

私は、2020年から野鳥観察会に参加しています。鳥はかわいいです。その色や、羽、足も全てがかわいいです。野鳥観察をするようになってから、家の近くや電線にとまっている鳥も少しずつわかるようになりました。家で鳥を飼うようにもなりました。

枚方地区では、淀川の護岸工事で木が伐採されていて、鳥の住む所がなくなっていました。お母さんから「洪水などの被害を防ぐため」と聞きましたが、鳥が住む所を無くしてほしくなかったです。

山田池公園では、野鳥観察の途中で、ヌートリアと出会いました。ヌートリアが近寄ってきてくれて、うれしかったです。

いつも野鳥観察をしてくれてありがとうございます。かわいい野鳥に出会えて、とてもうれしいです。

河東 優由姫(小6)



トビが!

また、行ってみたい 野鳥観察

伊与久 葉月 (小3)



キセキレイ

2月12日、よど川と山田池公園に鳥のかんさつに行きました。きおくにのこる鳥を書きます。池でオオバンを見ていると、急に橋の下から青い光った鳥が目の前を通りびっくりしました。それは、カワセミでした。また、あさい川でぴよんぴよんはねたり石にかくれたりしているキセキレイを見ました。黄色いおながみえました。とてもきれいでした。いろんな所で色んな様子の鳥を見れました。また、行きたいです。

意外に鳥がたくさんいた

千田 奏太 (小6)

枚方市の淀川の河川敷で野鳥を観察しました。最初にみんなで集まっていた時にカラスとトンビが戦っているのを見ました。自然を学ぶ会の人のお話が終わって出発してすぐにモズを見つけました。最初はスズメかと思いましたが双眼鏡で見るとモズでした。それからいろんな種類の鳥を見ました。たまたま植物もみたりしました。

最後に見た鳥はコサギです。体が真っ白ですごくきれいでした。カワセミも見なかったですが、残念ながら見れませんでした。その日気づいたのですが、淀川の川の上にも意外に鳥がたくさんうかんでいました。たくさんの種類の鳥が見れて楽しかったです。鳥のことをよく知っている人がいて鳥のことをいろいろ教えてくれました。鳥のことをたくさん知っていてすごいなと思いました。まだ見ていない鳥もいるのでまた行ってみたいです。



モズ

孫は散歩が大好き ～自然とのふれあいで孫の世界が広がっていく～

佐藤 邦子



孫は散歩が大好きな2歳の男の子、休日のパパとママの散歩は特に好きで、自然を体中に感じながら楽しそうに歩きます。

雨上がりのクモの巣を見つけてさわろうとした時のママとの会話

「これはクモさんのお家だよ、壊すとクモさん困っちゃうから、見るだけにしようね」とママ。

「これクモさんのおうち! クモさんお出かけしてるのかなあ・・・」と孫。

ママは、草花や生物を身近に感じて欲しいので「さん」づけしているのだそうです。

どんぐり拾いに行った時、両手にいっぱい抱えて、「おかあちゃん、おさとうをたっぷり入れてに(煮)ようね」と。「ぐりとぐら」の絵本の世界に入りこんでいて、ママは大感激。自然とのふれあいで孫の世界が広がっていくのが楽しみです。

寝屋川市野外活動センターとの協働活動

第4回自然観察と環境整備

2月6日(火)

参加者 18名

曇り空から漏れる陽光に暖かさを感じる日でした。いつものように、蛍広場の階段のそうじ、木の剪定、排水溝のそうじ、通路などの落ち葉掃き、昼食作りに分かれ、作業をしました。特に炊事場横の排水溝は砂などがいっぱいたまっており、悪戦苦闘。砂などがすっかり取れ排水が気持ちよく流れるのを見て大満足。

楽しみの昼食は、「韓国風杉本スペシャル」ちょっと辛口で、麺を入れておいしくいただきました。

片付けを終えた後、珍しいイヌシデの実の話を聞きました。

午後は、室池へ野鳥等の観察に行きました。キカラスウリの大きな実、スズメウリのかわいい実。マガモ、キンクロハジロ、ヒドリガモ、オオバン、ヨシガモ、そして楽しみにしていたオシドリが観察できました。



砂がたくさん!

参加・協力行事

「東図書館」 ～お正月をたのしもう！～ 1月7日(日) 協力者3名



やじろべえ作り

市民会館の中にある東図書館でやじろべえ、どんぐりペンダント、白いこまの色付けの工作で参加しました。予定していた参加数より少し少なかったのですが、多くの親子の方たちとおしゃべりしたりして楽しみました。他のブースでは、輪投げや紙相撲、だるま落としなど昔懐かしいおもちゃがあり、色々楽しめるようになっていました。

みんなでつくる自然資料室だより

新しい年を迎え、新しいイベントにも挑戦し、賑わいを取り戻しています。お立ち寄りください。

□子ども自然シリーズ講座

⑩「凧と羽子板作り」 12月23日(土)
子ども18名(他21名)

はじめにお正月の遊びと、凧と羽子板のいわれについての話を聞きました。凧作りが8名と羽子板作り10名に分かれ、スタッフや大人の方に教えられ完成させました。



羽子板に絵を描いている

できた凧と羽子板を持って、桜小学校の校庭で思いっきり遊びました。

凧を作った子は「作るのは難しかったけど、できて運動場で凧が上がって楽しかった」。羽子板では「思ったように絵が描けたし、遊べて楽しかった」「10回連続打つことができた」との感想がありました。

⑪「ひなだん作り」 3月2日(土)
子ども13名(他23名)

のこぎりと金づち等を使ってひなだんを作ります。はじめに、「ひなまつり」の話を寺西さんから聞きました。次にひなだん作りを中井さんが一工程ずつ説明されました。板をのこぎりで切ったり、釘を金づちで打ちつけていきます。段々ができたら、赤い紙、金の紙を貼って3段の雛壇が完成です。杉本さんがあらかじめ作っておかれた親王や三人官女、五人囃子等を並べて、飾りました。



もう少し!

「初めてのこぎりを使えて、うれしかった」「できたひな人形を自分の机に飾ります」とうれしそうに答えていました。

□幼児と保護者の自然教室

⑫「カスタネット人形作り」2月10日(土) 親子1組(子ども3名、親1名)(他11名)

参加申込みが少なく、当日熱や体調不良での欠席もあり、1組の親子だけになってしまいましたが、参加したスタッフも良い勉強になりました。まず、用意された牛乳パックを型紙の通り切っていきます。積水の補助金で買った真新しいはさみなので、切れ味が抜群。幼い子も自分で切っていました。開いたパックの中に、好きな動物の顔の絵を描きます。ゾウやウサギ、人の顔など。開いた手に瓶ビールのふたを接着して出来上がりです。プラスチックのふたも利用できます。人形の手をカチカチ鳴らして楽しみました。



顔を描いている

□大人自然工作シリーズ講座

⑤「ストーンアート」 1月12日(木) 参加者 20名



石に描いています

初めての企画で、ちょっと心配しながら始まりました。準備物としては丸っこい石と油性のペン、参考になるだろうと考えた図案です。はじめに石の話を西村さんにしていただき、ペンについての簡単な注意をした後、思い思いの石に描いてもらいました。参加の皆さんもスタッフも経験したことのない事です。1個目の石に図案を見ながら、ていねいに描いていきます。2個、3個と準備した石に好きな模様が出来上がっていきます。



満足!

「やり終わって、石の見方がかわった」「すごく楽しかった」「油性ペンを購入し、家でもやってみます」との感想がありました。

□自然資料室スタッフ研修会

「大阪城公園」 2月8日(木) 参加者 17名

～大阪城公園の野鳥と梅林の観察～

JR大阪城公園駅の近くの噴水広場に集合し、まずは森ノ宮方面にむかいました。樹木の間にはシジュウカラ、モズ、ヒヨドリなどの野鳥と、大阪城の堀の中にはキンクロハジロ、マガモ、オオバン、カイツブリなどの水鳥に出会いました。梅林の片隅で昼食をしていると、ジョウビタキが手の届きそうなところまで来てくれました。



植物の観察

今日は、25種の野鳥に出会えました。楽しい昼食後は、色とりどりのウメの花と香りを堪能しました。良い天気にも恵まれ、花や野鳥を見たり、おしゃべりしたり楽しい1日でした。

□ねやがわ自然塾 (第6期)

○第9回講座 1月12日

「市街地の野鳥」

- ①身近な野鳥の習性の話
- ②打上川治水緑地で野鳥の観察



打上川治水緑地にて

○第10回講座 2月16日

「地層と岩石」

- ①寝屋川の地層の話
- ②岩石の分類
- ③成田西公園で地層の観察とチャート拾い



成田西公園にて

○第11回講座 3月15日

「続けよう自然観察」

- ①自然観察の楽しさの話
- ②寝屋川市の活動拠点紹介
- ③閉講式



自然体験学習室にて

自然はすばらしい シダ植物シリーズ4.

イヌケホシダ 犬毛穂羊歯 *Thelypteris dentata* (Forssk.) St. John ヒメシダ科
天野 史郎

イヌケホシダは住宅地のあちこちに、ごく普通にみられます。カニクサとともに、もっともよく目にするシダですが、知名度はカニクサにくらべて格段に劣ります。それはイヌケホシダが新参者だからでしょう。イヌケホシダは琉球では普通の南方系のシダで、現在分布が北上中といわれています。地球温暖化の影響とよく言われますが、地球ではなく都市の温暖化というべきでしょう。事実イヌケホシダは山地には侵入していません。



側溝に生えるイヌケホシダ

関西では1980年代はまだ珍しかったのですが、2000年以降一気に増加し、今では街中のどこにでも見られるようになりました。ちなみに筆者は1990年当時、イヌケホシダの標本を博物館にもちこんだところ、植物仲間が珍しそうにのぞきにきたことをおぼえています。

和名のイヌケホシダはホシダが元になっています。ホシダは北河内では普通のシダで、葉先が頂羽片状になり穂のように長く伸びることからホシダ(図2)とよばれます。

つぎにケホシダは南方系の大型シダで、全体に毛が密生します。琉球列島ではごく普通種ですが、関西では見られません。イヌケホシダのイヌには似て非なるもの、劣るものという意味があり、ケホシダにくらべ大幅に小さいことから命名されたのでしょう。イヌケホシダ(図1)は、最下羽片が中央の最大羽片の2分の1以下に縮小すること、葉先が次第に細くなり頂羽片状にならないこと、などがホシダとのよい区別点です。

図3のように、葉脈が隣の羽片の脈とつながり網目をなすのがホシダの仲間の特徴で、羽片一枚あればそれとわかります。かつてはこの特徴からホシダ属に分けられていましたが、最近ではヒメシダ属にまとめられています。

イヌケホシダは芽生えから1年ほどで胞子を飛ばし繁殖できるようになります。また、関西では積雪時でも枯れずに越冬します。このように冬に強い性質や生長の早さから、今後もさらに増えていくことと思います。



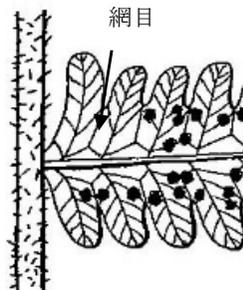
最下羽片は縮小

図1: イヌケホシダ



穂状

図2: ホシダ



網目

図3: 羽片の葉脈

自然界のふしぎ

自然界の不思議やその仕組みに迫るために前回の「火山のふしぎ1〜4」に続いて、今年度は「三葉虫シリーズ」をお届けしています。

三葉虫シリーズ4

「三葉虫の進化と衰退」

西村 寿雄

三葉虫は生物が大爆発したカンブリア紀に生まれました。骨なし動物の固い殻を持った動物(節足動物)の一つとして出現しました。約5.4億年前です。その後少しずつ変化(進化)をくり返し多い時は1万種にもものぼったそうです。

古生代前半の海の底は三葉虫の独壇場だったようです。

ところが、三葉虫はシルル紀ぐらいから数は減ってきます。半減しました。(下図)

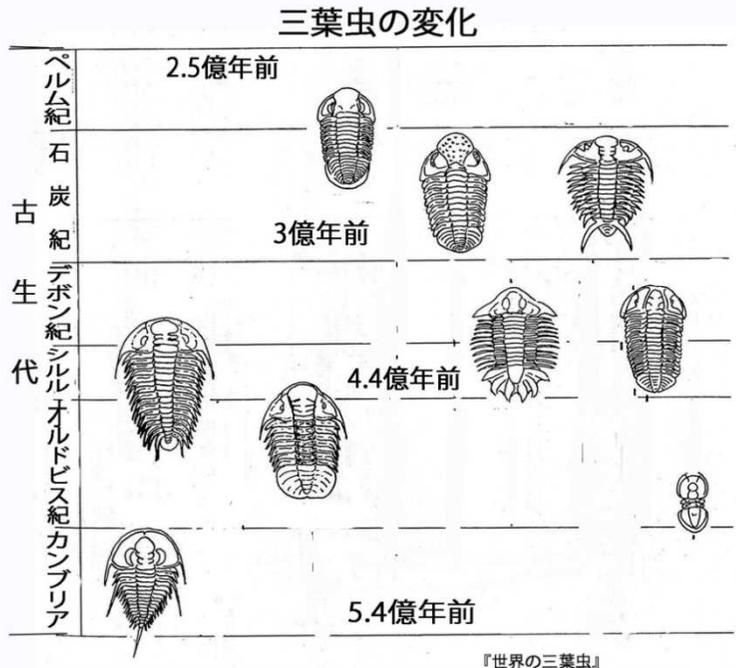
その原因として考えられるのは、氷河が溶け出し海水の塩分濃度が

下がったことが考えられます。また、三葉虫より大きな種類の節足動物や魚類が増え出し、それらに三葉虫は食べられたことも原因として考えられるとのことです。

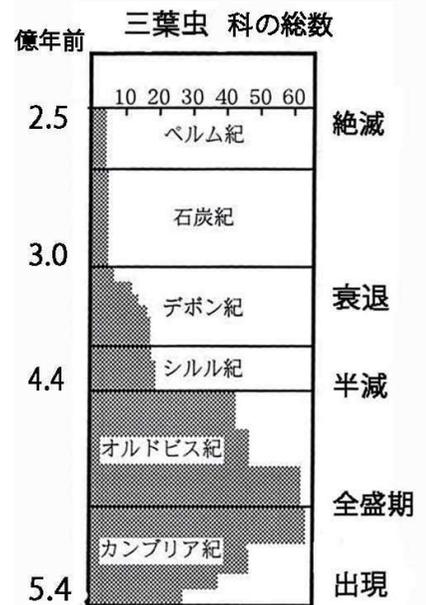
三葉虫はペルム紀末には絶滅しました。この時、各地で火山噴火が起こり三葉虫とともに海の生物の9割も無くなったとのことです。しかし、三葉虫は3億年も長い間生きていたこととなります。

三葉虫の生きていた時代は、地質学の世界では「古生代」と呼ばれています。その後は、アンモナイトや恐竜の時代(中生代)へと変化していきます。

生きた化石として、現在にも三葉虫の生き残りはいないのでしょうか。もしいたとしたら、あなたは何を思い浮かべますか。カブトガニでしょうか。



『世界の三葉虫』



『三葉虫とその時代』

私の自然観察**身近な昆虫 44**
—ヒゲナガサシガメ—

高本 憲二

今回は何を題材にしようかと迷っていました。散歩がてら公園を一回りしていると手摺の上を下の写真の虫が歩いていました。スマホで撮影したのでわかりにくいですが、クモヘリカメムシかヒゲナガサシガメの幼虫ではないでしょうか？



まだ少し寒い、この会報が出るころ大きな葉っぱ裏を覗くといろんな虫が張り付いています。ヨコバイやキジラミの仲間が多いようですが、その中に透き通った飴細工のようなきれいな虫がいます。幼虫のヒゲナガサシガメです。

全長3センチほど。合わせて前方にまっすぐ伸ばした触角は体長（頭から腹部の後端まで）よりも長く、まさに「ヒゲナガ」です。全身が薄緑色で、頭部、胸部、腹部の背面には赤や褐色の幾何学模様があり、ガラス細工か飴細工のような趣があります。↓

常緑の大きな葉っぱの裏にいるのは、たぶんエサとなる小さな虫たちが勝手にやってくるからではないでしょうか。ここにいれば獲物の少ない時期でも食事にありつけるといわけです。もう少し暖かくなると動き出して遊歩道の擬木柵の上で見かけることが多くなります。5月か6月になれば、翅が生えて成虫になります。



写真はずっと前の私市植物園の観察会の際に撮影したものです。今度の観察会のときには、ヤツデやアオキなどの大きな葉っぱの裏を覗いてみましょう。きっと素敵な虫たちの世界と出会えることでしょう。

ヒゲナガサシガメ：カメムシ目サシガメ科

スマートな体型のサシガメ。濃褐色～茶褐色で、腹部や脚、小楯板などは黄色。胸の両側は鋭くとがる。触角が細長い。

樹上で生活し、他の昆虫などを捕えて体液を吸う。

図書紹介 ～こんな本が出たよ～

『海にしずんだクジラ』

メリッサ・スチュワート/文 千葉茂樹/訳 藤原義弘/監修 BL 出版

一つの命がめんめんとつながる命継承物語である。「深海底に突然クジラが沈むと、想像をこえた大宴会の始まりです。」と監修者の藤原さんが書いている。深海で一匹のクジラが海底に沈むと分解されるのにおよそ500種の生き物に命をつないでいるとか。一匹のクジラの死体がたくさんの海の生き物の命をつないでいくという壮大な物語である。



著者の経験に基づく事例をもとにこの物語は始まっている。まず、一頭のクジラの死体が海底に沈むところから。次ページには、「70年生きてきたクジラの命は、これでおわり、でも、深海にくらす生き物にとっては、あたらしいはじまり。」と書く。最初にやってくる魚はなんだろう。ヌタウナギと書かれている。サメではなかった。においをかぎつけ集まって来たとか。次は、オンデンザメと書かれている。クジラの皮と身にかぶりついたそうだ。やがて、いろんな生き物がやってきた。あまり聞きなれない魚だが、コダラとかゲンゲのなかまと書いている。それにズワイガニがやってきて「小さな残りものを、ほじくるように食べる」とある。やっとなクジラの骨が見えてくる。さらに骨だけの死体が描かれている。ここには小さなヨコエビがやってくる。そのヨコエビをねらって小さなタコたちが集まってくる絵がある。タコもたくさん集まってきている。もうこれでお終いかと思いきや・・・まだまだ集まってくる。カニのなかまや他の甲殻類、ナマコなど小さな生き物たち。これらの生き物にとっては、肉のおこぼれもたまらないごちそうのようだ。ゾンビワームと言う生き物(海藻?)がびっしりクジラの骨をおおうとか。なんと「根から酸をだして、骨にあなをあけていく」とか。こんどは小さなバクテリアが命をつなぐ。海底をはいまわる小動物も来る。それを目当ての生き物も集まる。まるで大レストランに早変わりだ。やがてバクテリアはクジラの骨に穴を開けてトンネルをつくっていく。そのとき出るガスで微生物が育っていくとか。「50年にもわたって、何百種類もの生きものの、何百万もの命をささえつづけたのだ」と結ぶ。

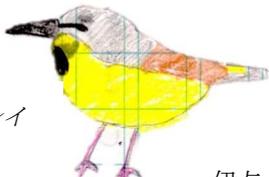
2023.8.1 1,800円 <西村 寿雄>

お友達の絵

4ページ散歩道の原稿に描かれていました。



カワセミ



キセキレイ

伊与久 葉月

新会員紹介

会員数178名

緒方 房代

佐藤 良彦

東 有美子

(敬称略)

行事予定

□ 第8回定例自然観察会

私市植物園の散策

- ◇日時：2024年3月20日(水・祝) 雨天中止
9:30～12:00 (午後は自由見学)
- ◇集合場所：大阪公立大学附属植物園正門前
- ◇持ち物：水筒、雨具、筆記用具、(弁当)
- ◇入園料：350円
*中学生以下無料・府内在住 65歳以上 150円
(年齢・住所を証明するもの：免許証等)
- ◇駐車料：500円



カタクリ

□ 第1回みんなの掲示板

奈良・宇陀市

カタクリ・又兵衛桜の見学

- ◇日時：2024年4月2日(火)
- ◇集合場所：寝屋川市駅アルカスホール前
午前8時30分集合
(帰着予定：午後5時30分頃)
- ◇持ち物：弁当、水筒、雨具、その他
- ◇交通：マイクロバス利用
- ◇参加費：5,000円程度
*参加申込みは3月末までにいずれかへ
中村清秀 (090-8750-5738)
千田正喜 (090-4036-0719)

□ 第1回定例自然観察会

東部丘陵を歩く

- ◇日時：2024年4月23日(火)
9:30～14:00 雨天中止
- ◇集合場所：JR寝屋川公園駅東口バスロータリー
- ◇持ち物：水筒、弁当、雨具、ガイドブック
- ◇丘陵地の春の野草を観察



ゴヨウアケビ(東部丘陵)

編集後記

暖かい日があるかと思えば、寒さの厳しい日が続いたり、インフルエンザで多くの学校で学級閉鎖が続いたりしました。会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。そんな中でも、冬の野鳥観察会でも、展示会でも多くの方の参加やご協力がありました。

山笑う三月、自然観察の楽しみが広がります。木は芽吹き、草花は虫を誘います。みんなで身近な自然を楽しみましょう。

2024年度・寝屋川市自然を学ぶ会

総会案内

- ◇日時：2024年4月29日(月・祝)
- ◇場所：市民会館 2階 第1会議室
TEL：072-823-1221
- 総会
 - 9:30 受付
 - 9:45 開始
 - ① 2023年度 活動報告・会計報告
 - ② 2024年度 新役員選出
 - ③ 2024年度 活動計画・会計予算
- 記念講演 10:40～
「シダ観察の楽しみ」
～河内森周辺のシダを中心に～
講師：天野 史郎 さん
- 参加者の交流
自然に関わる話題を交流します。
みんなで楽しみましょう。
☆会員でなくても、関心のある方のご参加を歓迎します。

□ 第2回定例自然観察会

淀川河川公園点野野草地区

- ◇日時：2024年5月5日(日・祝)
9:30～12:00 雨天中止
- ◇集合場所：淀川河川公園 太間地区駐車場
- ◇持ち物：ガイドブック「春の淀川」、
水筒、雨具 (ゆっくりできる方は弁当も)
- ◇春の野草や昆虫を観察